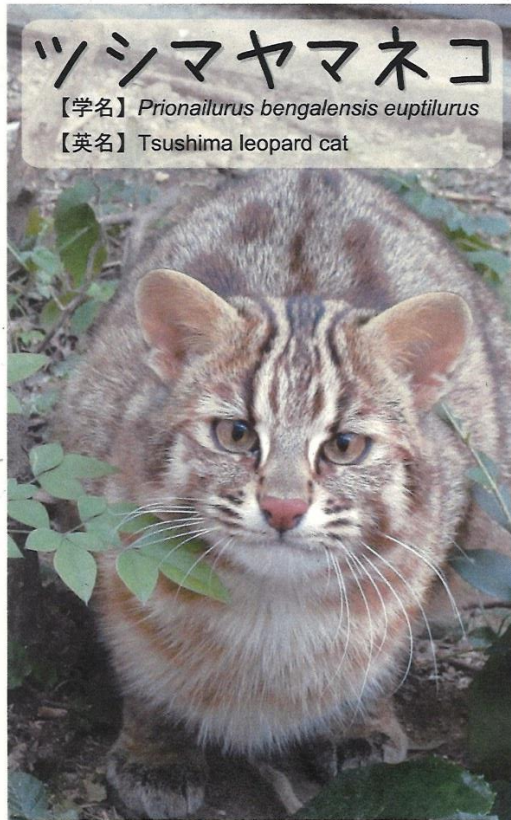


ツシマヤマネコの保護活動、普及啓発、生態等について*ツシマヤマネコリーフレットより



ツシマヤマネコ

【学名】 *Prionailurus bengalensis euptilurus*
 【英名】 Tsushima leopard cat

ツシマヤマネコは、日本では対馬だけに生息する野生のネコです。約10万年前に、当時陸続きだった大陸から渡ってきたと考えられ、ベンガルヤマネコの亜種とされており、極東アジアに生息するアムールヤマネコとは非常に近縁な関係にあります。1971年に国の天然記念物に指定されています。現在、生息環境の悪化や交通事故などで生息数が減少し、絶滅のおそれのある種として、1994年に種の保存法に基づき国内希少野生動植物種に指定されました。将来、自然状態で安定的に生息できるよう、保護増殖事業が実施されています。

環境省

保護活動

環境省は、1994年3月にツシマヤマネコを種の保存法に基づいて「国内希少野生動植物種」に指定し、長崎県をはじめとする様々な団体と協力して保護事業を実施しています。

生息調査

ツシマヤマネコの行動圏を把握するための追跡調査を行っている他、痕跡調査や自動撮影カメラによる生息状況の調査も行っています。



カメラにうつった子ヤマネコ

生息環境の改善

- 市民参加の森づくり活動による森林環境の改善
- 環境配慮型農業の普及による生息環境の改善
- 交通事故のメカニズムの解明と対策
- 対馬地区ネコ適正飼養推進連絡協議会によるイエネコの適正飼養の推進
- ツシマヤマネコの生息地を利用したエコツーリズムの推進



森づくり活動



佐渡ツシマヤマネコ米



捨てペット防止キャンペーン

飼育下繁殖

環境省と(公社)日本動物園水族館協会は、平成26年5月に締結した「生物多様性保全の推進に関する基本協定」に基づき「保険個体群としての種の保存」「野生個体群の補充」「科学的知見の集積」「普及啓発」という4つの目的のもと、全国8つの動物園にて飼育下繁殖事業に取り組んでいます。



野生復帰事業

動物園で繁殖した個体を野生復帰させるための訓練を行う、野生順化ステーションが下島の鮎もどし公園内に建設されました。まずは野生復帰させるための技術確立を目指して取り組んでいます。

普及啓発



ふれあいイベント



ヤマネコ教室



交通事故防止キャンペーン

対馬野生生物保護センターでは、ツシマヤマネコをはじめとする素晴らしい対馬の自然について、多くの方々に楽しみながら知ってもらえるように、自然ふれあいイベントや小中学校等でのヤマネコ教室を行っている他、交通事故防止の呼びかけなどにも取り組んでいます。

生態

生息環境

これらの環境を餌場・ねぐら・休息場所などとして使っており、活発に活動するのは日没から夜中と明け方頃です。

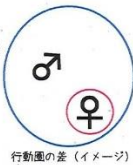


主な生息地は自然度の高い広葉樹林の谷間、林縁部、山腹斜面ですが、集落近くの田畑や海岸近くまで姿を見せることもあります。これらの多様な自然のまとまりが生息環境として大切です。

行動圏

ツシマヤマネコに発信機をつけて行動圏の調査をしたところ、メスは約1km×2kmの範囲内で生活しており、定住性が強いことがわかりました。

一方、オスの行動圏は広く、特に冬季にはメスの7~8倍ほどに拡大する場合もあり、これは繁殖行動のためと考えられています。



行動圏の差 (イメージ)

痕跡 (フィールドサイン)

ツシマヤマネコは用心深い動物なので、なかなか目撃できませんが、残っていた足跡やフンから生息を確認することができます。

[足跡]



爪の跡がない、4本指の丸い足跡。

[フン]



本趾の毛や骨、鳥の羽などに加え、イネ科の植物が入っていることが多い。

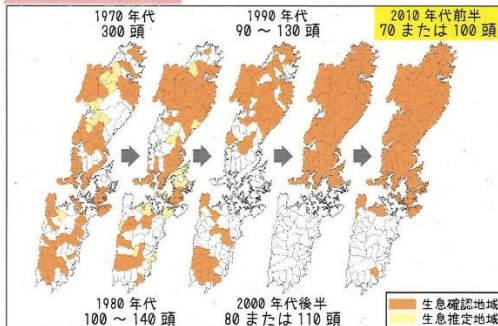
繁殖

2~3月頃に交尾し、4~6月頃に1~3頭の子を生むと考えられています。

生まれた子は母ネコに育てられ、生後6~7ヶ月くらいで独立するとされています。



生息数



1970年代には対馬全島に約300頭ほど生息していると推定されていました。しかし、最新の調査では生息数は約70または約100頭と推定されています。

分布域に関しては、上島南部での分布域の拡大が確認され、下島でも4つの地域で生息が確認されました。

食べもの

最も重要な食べものはネズミ・モグラ類で、季節を問わず食べています。また、冬には魚類、夏には昆虫類を多く食べることが知られています。



ツシマヤマネコの生息を脅かすもの

ツシマヤマネコの減少原因



対馬野生生物保護センター

対馬野生生物保護センターは、対馬の野生生物の保護の拠点となる施設です。ツシマヤマネコなど野生生物の生態や現状についての解説や、野生生物保護への理解を深めていただくための普及啓発活動、希少野生生物の保護増殖事業などを実施しています。

開館時間：10:00～16:30（入館は16:00まで）
 入館料：無料
 休館日：毎週月曜日（月曜日が祝祭日の場合は翌日が休館）・年末年始
 注意事項：館内での飲食・喫煙・ペット等の持ち込みはできません。
 【お問合せ先・連絡先】
TEL. 0920-84-5577
<http://www.kyushu/env.go.jp/twcc/>

ツシマヤマネコに関する
 情報（目撃等）をお寄せ下さい。
 ～24時間受付中～

ツシマヤマネコの特徴

イエネコとの見分け方

対馬には、野生のツシマヤマネコのほかに、イエネコ（ノラネコ）がたくさんいます。次のポイントをしっかりと覚えてください。



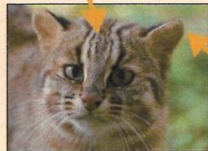
注目!
 耳の後の白い斑点が
 ヤマネコの
 一番の特徴です!



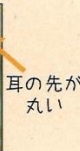
▲尾は太くて長い



▲胴長短足



額の縦縞



▲耳の先が丸い

日本に生息するツシマヤマネコの仲間

日本の野生ネコは「ツシマヤマネコ」と沖縄県西表島に生息する「イリオモテヤマネコ」の2種です。



イリオモテヤマネコ

ツシマヤマネコ

対馬には昔大陸とつながっていたことを示す貴重な動植物が生息・生育しています。また、渡り鳥の中継地として珍しい野鳥を観察することが出来ます。しかし、本土で見られるタヌキ・キツネ・ウサギは見られず、特殊な動物相の一端がうかがえます。



メモ・スタンプコーナー



※リサイクル適正の表示：紙へリサイクル可 この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準に伴い、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料【Aランク】のみを用いています。